

目的意識をもって読む説明的文章の授業

尾道市立高須小学校 藤井 良洋

1 実践の趣旨

(1) はじめに

本年度、所属校が「文部科学省全国学力・学習状況調査活用協力校」の指定を受け、全国学力調査の結果から指導改善に努める、という研修を行うことになった。

学力テストの正答率や誤答分析を行なう中で、学力調査の結果は、ふだんの児童の実態にも見られ、これまで行ってきた指導に問題点があると考えた。

(2) 児童の実態と指導上の課題

本学級の児童は、与えられた課題に対して進んで解決しようとする児童が多い。調べ学習の際にも、図書館で参考になる本を探したり、インターネットで調べたりして、学習内容に沿った情報を持ち寄る意欲的な児童が多い。また、選択する本の差はあるものの、全体的に読書習慣が身につく、読書量も多い。しかし、次のような課題が見られる。

- ① 読解の際に、単元のテストに対応できるような部分部分の読み取りはできても、文章全体を読み、段落相互の関係や、全体構造を意識して読み取ることができていない。
- ② 対象となる文章を読み取り、簡潔にまとめたり、自分なりの表現に書き換えたりする力が育っていない。
- ③ 教材文を通して学んだことが、自分で文章を書くなどの他の学習に十分活用できない。

これらの実態は、「何のために読む」という目的意識を明確にしないまま、型どおりの読解指導をしてきた結果であると考えた。そこで、単元全体を見通した目標を児童に持たせ、目標に向けた読みを行っていくような単元構成を行うことを課題として、本単元を設定した。

2 実践計画

(1) 単元名 だん落とだん落の結び付きを考えながら読もう

教材「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍4年上)

(2) 単元について

本単元は、読むことの力を育てるために、段落相互の関係を考え、書かれていることを正しく読み取れることをねらいとしている。そのためには、部分をまとめ、つなげ、比べることなどを通して、全体構造をよく理解することが必要である。

本教材は、12の形式段落で成り立っており、はじめ(課題の提示)・なか(実験・観察と結果)・おわり(まとめ)の段落構成が明確である。また、問いかけとそれに対する答えという形で展開しており、段落を意識しながら内容を読み取っていくのに適した教材である。さらに、本教材は、海の生物の生態を興味深く描いており、様々な事象に対して興味・関心を持つようになるこの時期の児童にふさわしい文章である。

本単元は、全体構造を考えて、筋道を立てて説明していくことの大切さとその方法を児童が学び取っていくことのできる単元である。

(3) 指導内容・指導方法について

説明的文章の指導過程において、以下のような指導方法を取り入れる。

- ① 「ヤドカリとイソギンチャクのQアンドAブックを作ろう」という目標を持ち、問いに対する答えと

して要点をまとめる活動を取り入れる。過不足なく読み手に伝えられるように、キーワードや中心文を取り出し、字数制限内でまとめさせる。それにより、必要な情報を取り出し過不足なくまとめることができるようにする。

- ②意見交流の場では、根拠を明確にして自分の意見を述べるができるようにするとともに、友達の発言内容と自分の考えとの相違点を考えながら聞くことができるようにする。
- ③学習した内容を問いと答えという形で構成し直すことにより、読み取りを深めるとともに、正確に読み取れているかどうかの評価を行う。
- ④単元末には、個々が、問いと答えという形で、共生関係の動物について説明文を書く活動を取り入れることによって、個々が調べた情報を筋道立てて表現させる。

(4) 単元の目標

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---------------------------------------|---|----------------------------|
| ・「ヤドカリとイソギンチャクの関係」に興味をもって進んで読み取ろうとする。 | ・内容を正しく読み、問いと答えという形で内容をまとめなおすことができる。 ・段落相互の関係を考え、文章の構成を考慮することができる。 | ・文章全体における段落の役割を理解することができる。 |

(5) 指導と評価の計画

(全10時間)

| 次 | 学習内容 (時数) | 評 価 | | | | |
|---|---|-----|---|---|---|------------------|
| | | 関 | 読 | 言 | 評価規準 評価方法 | |
| 一 | ・学習の流れをつかみ、全文通する。(1) | ○ | | | ・興味をもって教材を読もうとしている。 ・つまらず音読している。 | 発言 観察 |
| | ・読みの視点に沿って個々で読み取る。(1) 問いの文 答えが書かれているところ 文章のまとめりと小見出し | | ○ | | ・読みの視点に沿って、読み取ったことをもとに、線を引いたり、書いたりしている、 ・分からない言葉は辞書で調べ、確認している。 | 発言 ワーク シート |
| 二 | ・問いと答えの関係を意識しながら書かれている内容を全体で読み取る。(3)【本時】(2/3) | | ◎ | ○ | ・問いと答えの関係を見つけ、内容を正確に読み取っている。 | 発言 ワーク シート |
| | ・段落の関係をとらえ、ワークシートにまとめる。(2) | | ○ | ○ | ・各段落の内容から、文章構成についてとらえている。 | 発言 ワーク シート |
| 三 | ・「助け合って生きる動物」についてQアンドAブックを作る。(3) | | ◎ | ○ | ・「ヤドカリとイソギンチャク」の文章構成から学んだことを生かし、QアンドAブックを作っている。 | 作品 |

(6) 本時の学習

① 本時の目標

二つの問いに対する答えを見つけ、条件に従って読み取ったことをまとめることができる。

② 本時の学習展開

| 学 習 活 動 | 指導上の留意事項 | 評価規準 | 評価方法 |
|--|--|--|---------------|
| <p>前時を想起する。</p> <p>○前時までの学習を想起する。</p> <p>・問いと答えを発表する。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p> | <p>・問いと答えの関係を明確にさせる。</p> <p>・理由（わけ）を聞いた問いであったことを確認する。</p> | | |
| <p>学習課題：二つの問いに対して分かりやすく答えをまとめよう。</p> | | | |
| <p>3 学習場面を音読する。</p> <p>4 二つの問いに対する答えを読み取り、まとめる。</p> <p>○「どうやって」の問いに対して、方法や順序を明確にしてまとめる。</p> <p>・したことを見つける。</p> <p>「つつく」「引っぱる」→「はがす」⇒「おし付ける」</p> <p>・「したこと」の言葉を使って70字以内でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まず、イソギンチャクの体をつついたり、引っぱったりしてイソギンチャクをはがします。そして、自分の貝がらの上におし付けてうつすのです。</p> </div> <p>○「さされることはないのでしょうか。」の問いに対して明確な答えの形で書き表す。</p> <p>・まず、問いに対する答え（結論）書き、その後で理由を書く。</p> <p>・70字以内でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヤドカリは、イソギンチャクにさされることはありません。それは、イソギンチャクは気持ちよさそうで、はりもとび出さないからです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヤドカリは、イソギンチャクにさされることはありません。それは、ヤドカリに付くことで、イソギンチャクにとっても何か利益があるからです。</p> </div> <p>・まとめた答えの文を出し合い吟味する。</p> <p>5 どのようにまとめれば分かりやすくまとめられるのか話し合う。</p> | <p>・方法を聞いた問いであることを確認する。</p> <p>・順序を表す言葉を使ってまとめさせる。</p> <p>・本文中には、明確な答えが書かれていないので、本文から類推できることをもとにして書かせる。</p> <p>◆「努力を要すると判断される」状況の児童への手立て：</p> <p>キーワードを書いたワークシートを用意し、それに従って書くよう支援する。</p> <p>・小グループで選んだ答えの文をだし、全体で話し合わせる。</p> <p>・自分の意見を言った後に理由を話させる。</p> | <p>二つの問いに対する答えを見つけ、条件に従って読み取ったことをまとめている。</p> | <p>ワークシート</p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>○分かりやすく書くためにはどんなことに気をつけて書けばよかったかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉を入れる。 ・結論を先に書いて、後で理由を書く。 | | | |
|---|--|--|--|

3 実践の概要

(1) 活動目標

説明文の読み取りを「ヤドカリとイソギンチャクのQアンドAブックを作ろう」という活動目標を設定して行った。それにより、読解の目的を明確にさせた。

また、単元の終わりには「助け合う動物達のQアンドAブックを作る」という活動を行うことを見通させ、本文の書き表し方（段落構成や表現の工夫など）を自分の書く活動に活用できるように留意して本文を読み取らせていった。

(2) QアンドAブックを作る。

本文の全文を一枚に打ち出したプリントを児童に配布し、読みの視点に沿って「接続語」「指示語とその指す言葉」「問いの文」「答えが書かれているところ」「文章のまとめりと小見出し」など、個々で読み取り、プリントに書き込みをさせた。

その裏側に、各時間で学習したワークシートを順番に貼っていけば、「QアンドAブック」ができるようにワークシートを活用した学習を構成した。

各問いに対する答え方に、それぞれ意図を持って条件を設定した。

問い1 「なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらに付けているのでしょうか。」

理由を問う問いである。「ヤドカリは、イソギンチャクを自分の貝がらに付けることで、敵から身を守ることができるのです。」の文を引用すればよさそうであるが、これだけでは、「敵とは何か」「なぜ、身を守れるのか」などの情報が不十分である。

そこで、上記の文をキーセンテンスとし、それに、「しょく手」「はり」「タコ」など キーワードをつなげて、答えを書かせた。

キーセンテンスだけでは50字にはならず、指導者が実際に書いてみて必要十分な情報を書き加えるためには70字以上は必要であり、「50字以上80字以内で答える。」という条件を設定した。

〔児童の答え〕

イソギンチャクのしょく手は、ふれるとはりが出てしびれさせる。ヤドカリの敵であるタコもそれをおそれ近づかないから、自分を守るために付けるのです。

イソギンチャクのしょく手は、はりがとび出す仕組みになっていて、タコは近づこうとはしません。ヤドカリは、自分の身を守るためにイソギンチャクを付けるのです。

問い2 「ヤドカリは、石に付いたイソギンチャクをどうやって自分の貝がらにうつすのでしょうか。」

方法を問う問いである。大切なのは順序である。そこで、「《じゅんじょを表す言葉を使って70字以内で答える》」という条件で、「まず」「初めに」「次に」「そして」「最後に」などの順序を表す言葉を使うことと、「つつく」「引っぱる」「はがす」「おし付ける」など、したことをキーワードとして落とさず答えることに留意させて答えさせた。

〔児童の答え〕

まず、ヤドカリは、イソギンチャクの体をつついたり、引っぱったりしてはがします。そして、自分の貝がらにおし付けてうつすのです。

問い3「ヤドカリがイソギンチャクのはりでさされることはないのでしょうか。」

あるのかないのかを問う問いである。まず、結論先行で書き、その後に理由を書くと、読者には分かりやすい。そこで、《結論を先に述べてから理由を書く。2文で60字以内で答える》という条件で答えさせた。

〔児童の答え〕

A

ヤドカリは、イソギンチャクにさされません。わけは、イソギンチャクは、しょく手をのぼしたまま気持ちよさそうだからです。

B

ヤドカリはイソギンチャクにさされません。理由は、イソギンチャクはヤドカリに付くと利益があるからです。

C

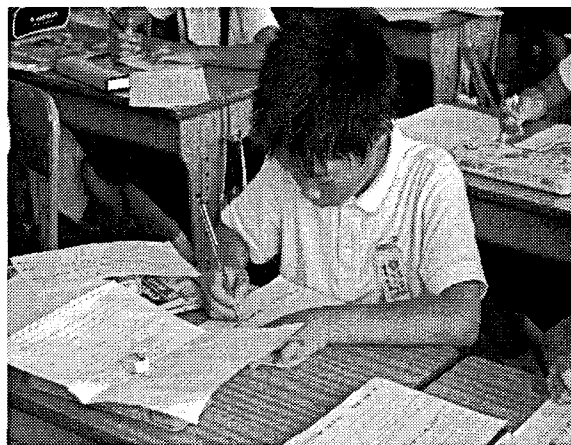
ヤドカリは、イソギンチャクにさされません。理由は、えさをとる機会がふえるし、ヤドカリの食べ残しももらえるからです。

児童の答えには、上記の3パターンがあった。

Aは、現象としてのさされない理由。

Bは、そのささないイソギンチャク側の理由。

Cは、Bの利益の説明。(Cについては、次時、問い4の答えと重なり、そのとき問い3の答えとしては不適切と判断された。)



問い4「イソギンチャクは、ヤドカリの貝がらに付くことで、何か利益があるのでしょうか。」

利益があるのかないのか、あるとしたらどんな利益があるのかを問う問いである。答えは二つあるので、ナンバリングを使って答えると、読者には分かりやすい。そこで、《結論先行で、3文で答える》という条件を設定した。

〔児童の答え〕

イソギンチャクの利益は二つあります。

一つめは、いろいろな場所に移動することで、えさをとる機会がふえることです。

二つめは、ヤドカリの食べ残しをもらえることです。

《問いと答えからできたワークシート》

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>問い1</p> <p>「ヤドカリとイソギンチャクは、このように、たがいに助け合って生きているのです。」にあわせ、ヤドカリとイソギンチャクの利益という視点で問いに対する答えの部分をつないでまとめさせた。</p> | <p>問い2</p> <p>「ヤドカリは、ベニヒモイソギンチャクを貝がらの上に付けている。ヤドカリの利益は、イソギンチャクを付けていないとタコに食べられるけど、イソギンチャクをつけていると食べられないこと。イソギンチャクの利益は、いろいろな場所に移動できることと、ヤドカリの食べ残しをもらええること。このように、ヤドカリとイソギンチャクは助け合って生きている。」</p> | <p>問い3</p> <p>「ソメンヤドカリは、ベニヒモイソギンチャクを貝がらに付けて歩き回っています。ヤドカリの利益は、イソギンチャクを付けていることで敵であるタコに食べられないことです。イソギンチャクの利益は二つあります。一つめは、いろいろな場所に移動できるので、えさをとる機会がふえることです。二つめは、ヤドカリの食べ残しをもらえることです。このようにヤドカリとイソギンチャクはおたがいに助け合って生きています。」</p> | <p>問い4</p> <p>「ソメンヤドカリは、ベニヒモイソギンチャクを貝がらに付けて歩き回っています。ヤドカリの利益は、イソギンチャクを付けていることで敵であるタコに食べられないことです。イソギンチャクの利益は二つあります。一つめは、いろいろな場所に移動できるので、えさをとる機会がふえることです。二つめは、ヤドカリの食べ残しをもらえることです。このようにヤドカリとイソギンチャクはおたがいに助け合って生きています。」</p> |
|---|---|--|--|

(3) ヤドカリとイソギンチャクの助け合って生きている関係をまとめる。

これまでの学習をまとめの文「ヤドカリとイソギンチャクは、このように、たがいに助け合って生きているのです。」にあわせ、ヤドカリとイソギンチャクの利益という視点で問いに対する答えの部分をつないでまとめさせた。

【児童のまとめ】

ソメンヤドカリは、ベニヒモイソギンチャクを貝がらの上に付けている。
 ヤドカリの利益は、イソギンチャクを付けていないとタコに食べられるけど、イソギンチャクをつけていると食べられないこと。
 イソギンチャクの利益は、いろいろな場所に移動できることと、ヤドカリの食べ残しをもらええること。
 このように、ヤドカリとイソギンチャクは助け合って生きている。

ソメンヤドカリは、ベニヒモイソギンチャクを貝がらに付けて歩き回っています。
 ヤドカリの利益は、イソギンチャクを付けていることで敵であるタコに食べられないことです。
 イソギンチャクの利益は二つあります。一つめは、いろいろな場所に移動できるので、えさをとる機会がふえることです。二つめは、ヤドカリの食べ残しをもらえることです。
 このようにヤドカリとイソギンチャクはおたがいに助け合って生きています。

(4) 段落構成について考える。

「単元について」で、「段落構成が明確である」と書いたが、「初めの問いを含む2段落は『はじめ』なのか『なか』なのか」、はっきりしない。児童に聞くとクラスが、ほぼ半分に割れた。
 『はじめ』だとする意見・・・「このようなヤドカリのすがたは、・・・」と、前の形式段落につながって書かれているから。①と②はわかれぬ。
 『なか』だとする意見・・・問いと答えの関係で②段落の問いに対して、⑥段落までで答えが出ているから1段落と2段落でわかれる。

そこで、「2段落の問いは、『おわり』までをくくることのできない問いである」ということを確認し、「おわり」までくくれる問いを作った。
 「どうして、ヤドカリとイソギンチャクはいっしょにいるのでしょうか。」
 「ヤドカリとイソギンチャクはどのような関係なのでしょう。」
 「ヤドカリとイソギンチャクはなぜいっしょになるのでしょうか。」
 などの問いを初めにおくことで、説明文全体の体裁が整うことを話し合った。

(5) 「助け合う動物達のQアンドAブック」を作ろう

(助け合う動物の関係と参考図書)

「カニとイソギンチャク」「クマノミとイソギンチャク」「ホンソメワケベラとハタ類」「カクレエビとウツボ」

『さんご礁のなぞをさぐって—生き物たちのたたかいと助け合い—』 武田正倫著 文研出版

「アリとチョウ」 『チョウとアリ—ふしぎな約束』 今森光彦著 平凡社

「アリとアブラムシ」「ウシとウシツツキ」 『理科学習ノート』 青葉出版

助け合う動物について書かれている図書を読み、本文のまとめのように、助け合う動物について、「2種類の動物の紹介」→「双方の動物の利益」→「まとめ」の形式でまとめた。

[児童の書いた説明文]

ウツボとカクレエビ

さんご礁には、魚をそうじするエビと、してもらい魚がいます。そうじするエビはカクレエビで、魚はウツボという種類です。

ふつうエビを食べるウツボは、どうしてカクレエビは食べないのでしょうか。

まず、ウツボは、エビの白いしよっ角に向かってやってきます。すると、エビはすぐウツボにとびうつり、ウツボの体をそうじしていきます。そうじとは、体の生き虫をとったり、きずついたそしきを切りとったりすることです。それをしてもらいのがウツボの利益です。

では、エビの利益というのは何なのでしょうか。

エビはそうじをしているという感覚はなく、自分のためにえさを食べているという感覚なのです。それがエビの利益です。

ウツボが口を閉じれば、エビは食べられてしまいますが、決してそんなことはしません。

ウツボとエビは、このようにして助け合って生きているのです。

カニとイソギンチャク

伊豆諸島より南の海のさんご礁や岩のすき間にいるキンチャクガニは、つめに毒のあるイソギンチャクを付けています。キンチャクガニは、夜に動き回り、エビや貝の子どもをえさにしています。

キンチャクガニは、なぜ両つめに毒のあるイソギンチャクを付けているのでしょうか。

キンチャクガニは、敵である魚に食べられそうになったとき、つめに付いているイソギンチャクをふり回し、魚をおいはらうのです。

では、イソギンチャクは、キンチャクガニといっしょにいることで何か利益があるのでしょうか。

イソギンチャクは、キンチャクガニといっしょにしていると、キンチャクガニのえさの一部をもらうことができるのです。

このようにキンチャクガニとイソギンチャクは、たがいに助け合って生きているのです。

イソギンチャクとクマノミの助け合い

日本では、6種類のクマノミが知られていますが、クマノミ類はどの種類も美しく、オスとメスが対をなしてイソギンチャクの触手の間を泳ぎ回っています。

クマノミとイソギンチャクの関係では、どちらが得をしているのでしょうか。

まず、クマノミには、どんな利益があるのでしょうか。

クマノミにとっての利益は、イソギンチャクに安全なすみかを提供してもらっていることです。イソギンチャクの触手の間にいると、大きな魚に食べられることがありません。

では、イソギンチャクには、どんな利益があるのでしょうか。

クマノミは、イソギンチャクの触手をつついて食べるチョウチョウオの仲間を追いはらうので、イソギンチャクにとっては大助かりです。

クマノミとイソギンチャクはこのようにして助け合い、両方ともが得をして生きているのです。

4 成果と課題

- 単元を通して明確に目標を持たせることによって、児童が主体的な読みを行うことができた。
- 「問いに対して条件の中で答えをまとめる」という活動をとおして、対象となる文章を見つけ、文と文や、段落相互の関係などを考えて、簡潔にまとめたり、自分なりの表現に書き換えたりすることができた。学習したことを他の場合にも生かすことができるのか、検証が必要である。
- 今回、指導者が与えた条件の中で答えをまとめる活動を行ったが、今後、どのような答え方をすれば読み手にわかりやすくまとめることができるのか、まとめていく観点を児童に考えさせることも必要であると思う。
- 教材文「ヤドカリとイソギンチャク」を通して学んだことを活用し、「2種類の動物の紹介」→「双方の動物の利益」→「まとめ」と形式にあてはめて書くことにより、誰もが、参考図書から、助け合う動物について自分で作文を書くことができた。
- 他の助け合う動物について作文を書く場合に、元になる資料が必要となるが、適した資料が少なかった。発展的な学習のための資料の準備が課題となる。
- 今まで、説明的文章の指導において、「形式段落の要点をまとめる」→「見出しを付ける」→「段落構成図をかく」→「全体をまとめたり、筆者の主張について考えたりする」→「指導の手引きにそって読み取りを生かした学習をする」という指導をしてきた。それは、指導者としても楽しくないし、児童にとっても楽しくない授業だった。今回の授業は、何より指導者自身が楽しかった。児童にも印象に残った授業だったようだ。